

今年度の目標と方策について（その成果と課題）

(1) 教育活動の目標と方策

ア 学習指導

- ① 教科会等を充実させ、授業改善を図り、組織的で計画的な学習指導体制を構築する。
- ② 「都立高校学力スタンダード」事業を通して、主体的学習へ向けた指導を充実させ、基礎的・基本的な学力の定着と向上を図り、評価の工夫を行う。
- ③ 読書活動を充実し、生徒の言語能力の向上を図る。

成果：①教科会を定期的実施し、生徒の主体的学習に向けた指導方法の改善を行った。  
 ②「マナトレ」を活用し週1回定期的実施して、単元課題の未到達生徒に補習を行い基礎学力の定着に向けて取組んだ。  
 ③書館だより等の定期的発行を通し生徒の読書活動の推進を図った。  
 課題：生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立を図ること。

イ 生活指導

- ① 安心・安全で落ち着いた学校生活を推進し、生徒一人一人の社会的・職業的自立につながる、地域からも信頼される身だしなみ等の基本的な生活習慣の確立、規範意識の育成を行う。
- ②生徒の個別状況を早期に把握し、きめ細かく組織的な指導を行なう。
- ③校内美化、省エネ、節電について考え、実践する力を培う。

成果：①日常的にマナーや身だしなみ指導を行い、基本的生活習慣の確立を促した。  
 ②各年次と連携し、生徒の個別状況を把握し生活指導を行った。特別指導件数は27年13件、28年8件、29年6件と連続して減少した。  
 ③環境美化委員は行事等で校内外の清掃やゴミチェックを行ない美化活動に貢献した。文化祭では、ゴミ回収の工夫からゴミ箱づくり、ゴミ分別徹底など学校全体での取り組みがしっかりと行われ、生徒の美化意識が高まった。  
 課題：欠席が多い生徒への社会的・職業的自立につながる継続した指導。

ウ 進路指導

- ① キャリア教育全体計画を組織的に実行し、1年次から計画的・段階的に、コミュニケーション能力、社会性の育成を含めたキャリア教育を充実させる。
- ② 三修制、四修制に配慮した進路指導体制を確立し、ガイダンス機能を充実させ、希望進路を実現する指導を行なう。
- ③ 特別な支援を必要とする生徒に対しては、組織的な就労支援体制等を構築し、卒業後の移行支援を見据えて指導する。
- ④ 卒業生に対して、定着指導・支援を行う。

成果：①体験学習を1年次から3年次までの全員に課した。各年次の参加率は1年次94%、2年次82%、3年次81%である。1年次は専門学校コンソーシアムTokyoと連携し、キャリア教育の一環として「Tokyoしごと倶楽部」に夏季休業中に全員が参加した。2年次は地域理解の中で、インターンシップ体験を行い、実践的な職業観・勤労観を養った。  
 ②平成29年度入学生から推薦に関わる規定を改定した。欠席日数の上限を決め、入学時から「安易に休まない・生活習慣を確立させる」ことを目標に指導した。  
 ③合理的配慮が必要な生徒に対し、大学進学に向けて受験上の特別措置を申請した。また入学後の学生生活についても情報を交換し、学べる環境を準備した。  
 ④卒業生の定着状況調査を11月に実施した。進学先別の定着状況は、大学・短大100%、専門学校93%、就職93%、職能60%であった。  
 課題：多様な進路希望に対応できる進路指導体制を整える。

エ 特別活動・部活動

- ① 学校行事については内容の精選と充実を図り、生徒会や部活動において生徒がより一層主体的に関わるように活性化させ、生徒の学校への帰属意識や社会性を高める。
- ② 地域と連携した避難訓練等の実施により、社会連帯の精神と責任を重んずる態度を育成する。
- ③ 体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動、教育活動を展開する。

成果：①各年次行事の企画・運営が充実して行えた。2年次では修学旅行で平和や環境保全への意識を高めることができた。また、集団行動・生活における規律への意識づけができた。  
 ②地域消防団、消防署、警察署と連携し、総合防災訓練を実施し、防災教育を推進した。  
 ③体罰、暴力的指導や行き過ぎた指導のない部活動、教育活動を実践した。  
 課題：学校行事の意義を理解させ参加をさらに促す取組が必要。

## オ 健康づくり

- ① 「アクティブプラン to 2020 総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）」に基づき、体力向上を目指す。
- ② 多様な生徒に対応した教育相談体制の確立を図り、心と体の健康づくりへの組織的な取組を行なう。
- ③ 学校保健計画に基づき、生徒・保護者が主体的に健康に関する意識を高めるよう、組織的指導の充実を図る。
- ④ 学校給食を活用した食育を一層推進する。

成果：①体力テストを組織的に実施した。気力体力鍛錬道場の指定校として、外部指導員を効果的に活用し部活動等における体力の向上を図った。  
②教育支援委員会を毎週開催することにより、生徒の情報把握をすることができ、専門職へ支援をつなげるなど組織的な取り組みを行った。  
③生活調査や歯と口の健康調査を実施することにより実態を把握することができ、集会やほげんだよりなどで結果のお知らせや保健指導を行った。  
④トライアル給食を1週間、年3回実施し給食への興味・関心を広め給食受給者の拡大を図った。入学を希望する中学生に対して給食試食会を3日間実施し、3部希望者の拡大に努めた。3部を第一希望とする生徒が増加した。  
課題：運動、睡眠、食事のバランスの取れた健康的な生活を送ること。

## カ 募集・広報活動（地域交流等）

- ① 総務部が中心となり、学校情報を更に積極的に発信し、募集・広報活動の活性化を図る。
- ② 地域の関連諸機関との連携を強化し、地域の教育力の活用の促進を図る。

成果：①学校見学会や学校説明会について、近隣各区立中学校及び教育相談室・適応指導教室に「学校案内」や「大江戸高校ニュース」等を配布し、近隣各区の中学校及び教育相談室・適応指導教室の高校説明会等に、教員を派遣し説明を行った。また、HPを充実させた。  
特色のある高校4校と合同で、中学校教員対象の合同説明会を本校で開催した。  
②各区立の教育相談室・適応指導教室・若者サポートステーションと連携して、本校生徒の自立に向けた地域の教育力の活用の促進を図った。  
課題：増学級における3部希望者の拡大。

## キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とし、主幹や分掌主任、経営企画室が一体となった学校運営体制を構築する。
- ② 校内研修の充実、目指す学校像の共通理解を図り、一貫した協働的指導体制を確立する。
- ③ 学校経営計画の実現を目指す経営参画型経営企画室としての機能強化を図る。
- ④ 施設・設備の安全管理、非常時の危機管理体制を整備する。

成果：①週1回定例で主幹会議と企画調整会議を行い、学校の課題に対して適切な対応と解決に取組めた。  
②教員相互の授業見学や若手教員の研究授業を通し授業力の向上を図るとともに他校の学校視察の報告会等により校内研修を深めた。  
③経営企画室と連携を密にし、適正な予算執行を行った。学校徴収金未納者0を達成した。  
④学校危機管理マニュアルを整備した。  
課題：校務分掌と校内委員会の適正配置及び主幹教諭、主任教諭の育成。教員のライフ・ワーク・バランスの実現に向けた環境整備。

## (2) 重点目標と方策

### ア 学習指導

- ① 土曜講習（かもめ塾）、授業TT、平日補講、**長期休業を利用した補習**など、進学対策委員会や学力向上委員会等を中心とした組織的・計画的な指導体制を確立し、学力差に応じた学力向上を図る。
- ② 各教科の生徒活動を引き出すための教材の工夫を行い、「アクティブラーニング」やICTを活用した学習指導等を実施するとともに、授業力向上のための校内研修の実施や校外研修への参加を行う。
- ③ **新たな評価基準による学習評価**を確立するとともに、学習到達度や学習経過の評価をとおして生徒の学習意欲の向上につなげる。
- ④ **教育課程を整理**し、より生徒の進路希望や適性にあったものに改訂し平成30年度から実施する。
- ⑤ 授業等で図書館利用を充実させ、読書月間・週間の設定を通して、読書活動を推進し、校内で「高校生書評合戦」を開催する。
- ⑥ JETプログラムやALTを積極的に活用し、語学力向上だけでなく、広く異文化理解に繋げる。

成果：①土曜講習（大学進学希望者対象のかもめ塾）を年間56時間（土曜23回）実施した。  
②大学院生などの外部人材を活用した学習支援を「わかる数学」を中心に行った。  
③評価法を5段階から10段階に変更し、生徒の学習到達度をより細かく評価した。  
④生徒の進路希望や適性にあった教育課程に改訂した。  
⑤生徒の年間図書貸出冊数が2366冊になった。校内で書評合戦を行い、都大会へ1名出場した。  
⑥JETは進路指導や学校行事、部活動等幅広く生徒と関わった。  
課題：自部の授業の中だけでも基礎学力を身につけられる学習体制を整える。

## イ 生活指導

- ① 「授業を大切に」週間を設定し、常に全教員が授業規律の確保・維持に努め、授業開始時刻と同時に授業を始め、生徒に「時間を守る」意識を育成する。更に授業の開始時・終了時の挨拶を敢行させる。
- ② 全教職員が本校の指導基準を共通理解し、遅刻防止・頭髪・服装等の生活指導を行う。公共の場や交通機関、学校生活を送る上でのルールやマナーを厳守させ、規範意識を高める。特に、情報機器の適切な利用（SNSルール）を徹底する。
- ③ 特別な支援が必要な生徒への生活指導について、教育支援委員会を中心に都教委の自立支援チームやその他の外部支援と連携を活用して、中退や不登校防止し、生徒の自立につなげる。
- ④ 清掃指導の充実を図り、校内の清潔感を保つ。

成果：①時間を守ることや挨拶を励行し授業規律の確保・維持に努めた。  
②SNSルールについて、1年次の授業の中でグループ活動を通して議論し発表を行うなど、ネットトラブルを未然に防止する取り組みを実施した。  
③YSW、SSW、SC、FA等と連携し、中退や不登校の未然防止を図った。  
④定期的にゴミ分別チェックを実施し、体育祭や文化祭ではゴミ分別の指導や委員会生徒の活動を取り入れ清掃や美化の意識を高めた。  
課題：単位制・3部制による生徒への意識づけと生徒一人一人に寄り添った生活指導体制の確立。

## ウ 進路指導

- ① キャリア教育推進委員会の活性化を図り、「チャレンジ指定科目」の指導内容・指導方法を検討・改善し、自己理解と将来設計の活動を重視し、計画的・系統的なキャリア教育を実施するとともに、保護者等への情報提供も適切に行い理解、協力を求める。
- ② ハローワーク、サポートステーション等の地域機関と連携を深め、進路指導を充実させる。進学者については学力の推移、就職者については資格取得の状況を分析し、組織的に進路指導を行う。その上で1・2・3年次全員に統一した学力テストを実施し、**その活用を図るとともに**、資格取得を奨励する。
- ③ 特別支援教育コーディネーターが中心となり、特別支援学校と連携した進路指導の充実を図り、特別な支援を必要とする生徒に対しても「進路指導カード」を活用し、進路実現を図る。
- ④ 卒業生全員への「卒業生進路アンケート」や就職先、進学先訪問など卒業生への支援を行う。

成果：①地域理解において文章の書き方講座や小論文講座を実施し、3年次の進路活動の準備を計画的に進めた。またLHRにおいて一年間をとおして高校生基礎力ドリルに取り組みせ、継続的な学習習慣の確立を図った。1年次は学力テストを年2回から3回実施へと増やし、学習到達度をきめ細かく測定した。チャレンジ指定科目の指導内容を見直し、3年次の体験学習（福祉施設体験）を来年度は実施せず、進路活動に重点を置くこととした。  
②就職希望者に対し、ハローワークと連携し生徒の希望・適性を尊重した指導を行った。就職決定率は100%である。検定の合格者が昨年度から増加した。29年度 148件・204単位  
③外部人材を活用した奨学金説明会を2回（5月・3月）実施した。給付型奨学金などの最新の情報を提供した。  
④指定校を中心に卒業生の進学先を訪問し、大学の入試情報を収集した。  
課題：学力テストや生活調査のデータ分析を行い、学習指導、生活指導、進路指導に生かすこと。進路カードの活用方法を改善する必要がある。

## エ 特別活動・部活動

- ① I部、II部、III部の生徒が一堂に会する学校行事、生徒会活動をより充実させ、学校行事への参加率を向上させる。
- ② 全校集会や部集会を活用し、校歌指導や講話等の指導を充実させ、大江戸高校生としての自覚と連帯意識を育成する。
- ③ **東京都教育委員会による「気力体力鍛錬道場」指定のもと、部活動加入を促進し**、生徒の体力や気力の向上を図るとともに、達成感や満足感を体験させることで、主体的に活動することの意義を感じさせ、リーダー育成を図る。
- ④ 教員を対象に体罰防止、いじめ防止の校内研修を行う。また、部活動の顧問教諭は、部活動の「指導方針等」を作成し、生徒・保護者に対して説明を行い、さらに保護者に対して指導状況の参観の機会を設ける等体罰防止に向けた取組を行う。外部指導員については、経営企画室を含めて委嘱・承諾を適切に行う。

成果：①②体育祭・文化祭とも学校全体で活気のある取組ができた。1年次は合唱大会を通して歌唱指導を実施し、校歌を課題曲に設定することで大江戸高校生としての自覚と所属意識を醸成した。3年次では裁判員制度、年金講座、若旅、着こなしセミナー等、社会参加へ準備としての取組を充実させた。  
③卓球部女子が定時制通信制全国大会で団体優勝をした。東京都教育委員会表彰を受けた。  
④全教員を対象に体罰防止、いじめ防止の校内研修を行い、年間を通して体罰の発生は皆無であった。経営企画室と協力し、外部委嘱については、適切な手続きを行った。  
課題：生徒の部活動加入率の向上。

## オ 健康づくり

- ① 「精神科医の校医事業」、「都立高等学校等への特別支援教育心理士巡回相談事業」及び「高等学校における発達障害教育支援員等活用の研究事業」の実施校として、専門家のコンサルテーションを生かすとともに関係機関との連携を図る。
- ② 新たな感染症、心の健康づくり、食物アレルギー等の健康課題を理解するための校内研修を開催し、組織的で具体的な取組への実践力を高める。生徒対象には、薬物乱用防止教室、情報モラル・リテラシーに関する教室、交通安全教室、喫煙防止教室等を開催する。保護者にも保健便り、カウンセラーだより、講習会参加など子ども理解のための支援を行う。
- ③ 栄養職員、学級担任等が中心となり、学校給食等を活用した食育の一層の推進やテーブルマナー講習会の実施を通して、正しい食生活、食に関する知識・理解を深めさせる。

成果：①教育支援委員会を中心とし、支援の方向性を見極め早期に各専門職と連携することができた。  
②食物アレルギー対策では、委員会が中心となり校内研修を実施し日常及び緊急時体制を整備した。  
③ほけんだよりを発行し、生徒や保護者が気軽に相談できるよう専門職についての広報活動を行った。

課題：専門家と連携を深め多くの教員が関わることによる事業の活性化。

## カ 募集・広報活動（地域交流等）

- ① 校内において学校説明会や適応指導教室、教育相談室及び1年次生出身中学校等を訪問し、学校情報を提供する。また、退職教職員等ボランティアも活用し、個別学校見学への対応を行う。
- ② 増学級に備え、募集広報活動を練り直し、本校で自己実現できる受検生の応募数増加を図る。
- ③ ホームページの充実を図り、適宜で内容を更新する。

成果：①校内外の学校説明会を積極的に行った。適応指導教室や中学校と情報交換を行った。  
②授業公開及び給食試食会を通して3部の魅力を伝え3部希望者の拡大に努めた。  
③学校情報をより早く伝達するため、ホームページを随時更新し有効に活用することができた。

課題：増学級に伴う広報、募集対策の工夫。

## キ 学校経営・組織体制

- ① 「OJT診断基準」、「執務ガイドライン」を活用し、教員が一体となって学校運営に当たっていく体制を構築する。
- ② 「経営参画ガイド」や事例集を活用し、経営企画室の経営参画を推進し、教育職員と行政職員が密接な連携の下、学校運営を進める。
- ③ 施設・設備の安全確認・効率的利用の視点から校内外を巡視し、より安全・安心な学校環境を整備し、不備による事故をゼロとする。町内会の一員として、地域ぐるみで地域を含めた防災教育の推進を図る。

成果：①②教員と経営企画室との連携を推進して、学校行事の効率化や予算の有効活用などを図った。  
③管理職、経営企画室職員及び教職員による校内巡回を毎日実施して、施設・設備の安全管理の徹底を図った。また、地域の防災会議や合同防災訓練に参加して、地域を含めた防災教育の推進を行った。

課題：30年度増級に伴う施設・設備の整備。教員のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた環境整備。

## ク 数値目標

- ① 生徒による授業評価において、満足度、理解度を85%以上。 86.2%（一学期） 85.6%（二学期）
- ② 教員によるお互いの授業参観を学期1回以上、授業に関する校内研修を年間1回以上。  
授業研修会・・・学び直し、及びICT活用先進校視察の報告会を実施。
- ③ 1・2・3年次の基礎学力テストで、英語、数学の学力段階D3を30%以下、C以上を25%以上。  
1年1月 数学D3 33%C以上34% 英語D3 20%C以上38%  
2年9月 数学D3 22%C以上22% 英語D3 32%C以上33%
- ④ 資格取得を奨励し、資格取得者140名。 資格取得延べ148名
- ⑤ 生徒の進路決定率80%以上。 進路決定率75.2%
- ⑥ 文化祭、体育祭への生徒参加率85%以上に。 1～4年次の文化祭参加率71% 体育祭参加率75%
- ⑦ 5月の部活動加入率70%以上、全国大会出場4部以上、さらに、12月末の部活動加入率60%。  
全国大会出場3部（卓球、柔道、剣道同好会）卓球は女子団体が全国優勝  
12月の部活動加入率 45%
- ⑧ 生徒のBMI標準範囲（18.5～25）の割合を65%以上。 1、2、3年生の標準割合 1年57% 2年67% 3年68%
- ⑨ 学校説明会の参加者2000人以上、退職ボランティア等を活用した個別訪問対応600人以上。  
学校説明会 1663名 個別訪問 335人（退職ボランティア）584人（授業公開）
- ⑩ 入選倍率1.8倍以上。 入選倍率 1.59倍
- ⑪ 給食喫食の生徒率（3部生の）50%以上、実際の食数率50%以上。1日平均48名が喫食 予約数に対する喫食率86.6%
- ⑫ HPの更新を年間80回、アクセス数を月6000回以上。 更新75回
- ⑬ 自律経営推進予算のセンター執行割合60%。 センター執行割合63.5%